

記帳書の提出はお済みですか？

この度の旭川別院本堂等改修工事にあたり、記帳書提出していただき感謝申し上げます。ご門徒全員が一丸となって本堂等改修を目指していきたいと考えておりますので、いまだ記帳書の提出が滞っております方々には是非ともお願い申し上げます。

本堂等改修工事

* 本堂工事概略工程

平成23年4月～ 6月 外壁の土壁・モルタル壁・下見板張壁・
基壇石積・基礎工事施工

7月～12月 屋根(半分程度)・外壁・床工事施工

平成24年2月～ 6月 内外装工事及び屋根工事(銅板含む)施工

7月～ 8月 屋根銅板工事・内装・電気・設備工事施工

※平成24年8月20日建築工事完了し、以後仏具復旧工事

* 大門工事概略工程

平成23年4月～ 5月 仮設足場・屋根葺地部分撤去・小屋裏の確認

6月～ 8月 小屋組・改修及び屋根下地やり替え工事

9月～11月 銅板葺き・築地塀改修・基礎工事

※平成23年11月20日完了予定

次回もお楽しみに (^_^)v

2011年5月20日作成

調査員: 草部・垣原・横井よ・長尾・高橋

別院しらべ隊

調査報告書No.16 剥がされて・覗かれて…

工事現況報告

平成23年5月初旬
株式会社 司設計事務所
取締役常務 長谷川一夫

本堂の外壁土壁・濱縁及び内部床の撤去し、現況確認しました。

まず外部濱縁の束などの木材の腐れがかなり見受けられました。駄目なものは全て新設で対応します。

本堂柱を受けている基礎石等に不同沈下もみられ最大で60mm程度です。内部側を基準として、外部側にいくほど沈下している状況です。

現況は外部廻りは基礎がなく、基壇の石積構造になっております。今回の工事で外部廻りは全て鉄筋コンクリート造布基礎で堅め、内部は全て土間コンクリートで補強し不同沈下が起きないような構造にやり替えいたします。

今回柱等の不同沈下を、極力高さ等のレベル合わせをしますが、木造等の変形部分は調節が難しい部部等があります。

基本的に使える部分の木造組は全て再利用で考え、床組も束など支えが少ない部分に鋼製束等の金物で補強し、数を3倍程度増やした補強方法で施工する考えです。



気仙宮大工 坂本さん

宮大工さんの作業現場にお邪魔しました。

一般に宮大工さんは寺社仏閣しか手掛けませんし、彫刻は彫師さんが別にいて、分担作業を行うということですが、気仙の宮大工さんは一般の家屋から無論寺社仏閣全て手掛け、彫刻に関しては誰かに頼むのではない

ようです。たとえば、建設中の空いた時間や雨天等に、自ら彫刻を彫るといった具合だそうです。

気仙の宮大工さんから頂いた資料には、仏壇を造られたという事が載っていました。伝承されてきた気仙宮大工(職人)の技術の凄さを、改めて感じました。

※調査員・高橋が気仙大工の皆さんにインタビューしたところ、照れながら面白いコメントをしてくださいました。

「なんだかもお鳩の糞がすごくて、糞の掃除に来たんだかわからんわ(笑)」

* 調査員・高橋が道具の写真を撮っていると、

「本当は道具が足りないんだけども、なんせ慌てて持ってきたもんだから… こっちで買いそろえてもいいんだけど、道具は自分で創るもんだから…

まあ、お小遣いもないしなあー(笑)」



ここが大門大棟鬼板

只今制作中



細かな部品を切取って・彫って、
↓ 輪郭を切り出した部品と合わせます。



彫りが完成すると板金屋さん
持って行き銅板で化粧をします。



人の技術の凄さを感じます。

職



つなぎ合わせて、さらに立体的に彫り進めて形を整えていきます。